

ゼミナール 日本の雇用戦略

ー人口減少下の労働問題ー

講師

高梨 昌信 （信州大学名誉教授）

雇用政策研究セミナーは、高梨昌信信州大学名誉教授を講師として、7回に亘り実施し終了した。

雇用・労働は暮らしと社会を再生産する営みであり、「商品化」してゆだねられる性格のものではない。現在の「雇用の危機」は、国民不安の最大の要因であり、一刻も早く打開する必要がある。そのためには、雇用政策を、単に労働政策の範囲に狭く捉えるのではなく、雇用に関わる諸政策の複合体として体系的に捉えなおし、長期安定的な雇用システムの再構築がめざされなければならない。

こうした問題意識のもと、雇用政策研究セミナーは連合総研の新たな試みとして、労働組合の政策スタッフを対象に現代日本の雇用政策体系の現状と将来展望、直面する雇用・労働政策の諸課題について、学習し、討議する場として開催した。参加者は連合本部からの参加も含め17名であった。

各回のセミナーでは、高梨教授の講義を受けるだけでなく、後半では予めコメンテーターとして指名された参加者2名が労働組合の雇用政策を推進する立場からの問題提起を行い、相互討論の深化が図られた。

連合総研では、当該の雇用政策研究セミナーの成果を労働組合における雇用政策学習のテキストとして編集、出版した。

目次

- 第1章 日本の雇用政策のしくみと流れ
- 第2章 若年者の高失業とフリーター、ニート問題
- 第3章 人生80年時代の高齢者の雇用と能力活用
- 第4章 雇用形態の多様化と新しい働き方
- 第5章 長期雇用システムと年功制の再評価
- 第6章 外国人労働者問題の所在と対策
- 第7章 21世紀人口減少社会の雇用戦略